

遲着

和闐に架設し在らざるのみ。電信は一般人民も漢字、英字の二種に限りて通信の便を得るも、技術の拙劣なる爲め、誤字甚だ多く、且つ到達時間頗る遅緩（北京、烏魯木齊間、通常電報は三日以上）にして、不便少なからず。

改良と増設

斯の如く不確實なる電信も郵便制度なきが故に、土人は之を唯一の通信機關として尊重しつゝ在るなり。又電柱の植立、電線の架設宜しきを得ざる爲め時々故障を生じ、數日、甚しきは一週間以上も、不通を來たすこと稀れならず。故に在來電線を改良すると同時に、喀什噶爾より葉爾羌、和闐を経て羅布淖爾地方を通じ、喀喇沙爾に到る一回線を設けざるべからず。何となれば、該線通過の地方には、地方官衙あるが故に之が延長の必要は、痛切に感ずる所なり。

尙ほ爲し得べくんば、一は烏魯木齊より張家口及蒙古の要地（科布多、烏里雅蘇臺等）に通ずるもの、一は羅布淖爾より西藏青海を經由し蘭州に通ずるものを架設すべし。然るときは、現今の北京線の外、張家口線、青海線の二駢行線を得て、中央政府との通信は益々安全確實と爲るべし。